

授業科目名	国語学Ⅱ (2100252)		
時間割名	国語学Ⅱ (12110)		
時間割担当	桑原祐子		
実施期	前期	単位数	2 選択
曜日・時限	月・2		

■授業の目標・概要

言語研究は、形態・意義・職能の3つの部分からなっており、それぞれ有機的な繋がりを持っている。本講義では、職能と言語生活を中心に学ぶ。職能の分野として、文法・文章を取り上げる。合わせて、各々の分野における言語現象の歴史の変遷についても学ぶ。合わせて、国語科教師としての実践力の基礎となる教材分析の能力を涵養する。

■学習の到達目標

- ・日本語の文法についての理解を深める。
- ・日本語の構文的職能を説明できる基礎的知識を身につける。
- ・日本語の文章の構造を理解し、教材分析に生かせる文章分析力の定着を図る。

■授業方法・形式

テキストに沿って、具体的な言語現象について解説を行うが、受講生の積極的な発言を促す。受講生に文の構成の分析や文章の型の分析を求める。毎時間、所見カードの記述を求める。

■授業計画

- 第1回 文法がなぜ存在するのか。
文とは何かということを考える。文・単語・音韻の存在と文の構造を学ぶ。
- 第2回 日本語の構造
屈折語と孤立語と膠着語の違い、膠着語としての日本語文の構造、文法の変遷を学ぶ。
- 第3回 形態素と単語
意義を有する最小の単位である形態素と構文的職能が託される最小の単位である単語を学ぶ。
- 第4回 自立語・付属語・用言の活用語尾
素材表示の職能を有する語と関係構成の職能を有する語について学ぶ。
- 第5回 文節と文の成分
文の論理的関係を示す格助詞と陳述の職能をもつ副助詞・係助詞について学ぶ。
- 第6回 日本的語彙の諸相1
副詞・助動詞の意義と職能を学ぶことによって、意義と職能の有機的な繋がりを学ぶ。
- 第7回 日本的語彙の諸相2
敬語法の変遷と現代日本語における敬語表現の「ゆれ」について学ぶ。
- 第8回 日本語の文章の構造
文章構成の型を学ぶ。文の接続・段落の接続について学ぶ。
- 第9回 日本語の文体
和文体の創造と変遷について学ぶ。合わせて、形態と職能の有機的関係についても学ぶ。
- 第10回 現代口語体の成立
言文一致と漢字仮名交じり文の特質について学ぶ。
- 第11回 言語生活1
言語の地域差、方言と共通語、共通語と標準語について学ぶ。
- 第12回 言語生活2
方言の成立と言葉の変化、方言の種々相を学ぶ。
- 第13回 言語生活3
社会と言語の関係、年齢・性差・場面の差・職業語・専門語・隠語などについて学ぶ。
- 第14回 言語生活4
言葉の規範や言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションの違いについて考える。
- 第15回 授業の総括として、これまで学んだことを纏める。

■成績評価の基準

定期試験60%、所見カード20%、授業への参加度20%の割合で、総合的に評価を行う。

■準備学習・復習及び授

- 1 テキストを読み、知らない文献や資料について調べておくこと。
- 2 身の回りの具体的な言語現象についての収集を心がけること。
- 3 不思議に思うこと、疑問に思うことは、積極的に質問し、問題提起すること。

■履修上のアドバイス

- 1 高等学校で使用した「国語便覧」等の資料集を準備すること。
- 2 中学校・高等学校で学んだ文法事項について、復習をしておくこと。

日本語に関する事柄について、様々な情報を収集すること。
私語・飲食は禁止。携帯電話等の使用禁止。

■教材・教科書

渡辺実『日本語史要説』（岩波書店）

■参考書

佐伯哲夫・山内洋一郎編『国語概説』（和泉書院）

金田一春彦『日本語の特質』（NHKブックス）

金田一春彦『日本語』上下（岩波新書）

山口仲美『日本語の歴史』（岩波新書）

沖森卓也『日本語史』（桜楓社）